

(別記)

令和2年度豊田市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

豊田市は、大きく平坦地域と中山間地域に分けることができ、南西部を中心とした平坦地域は水田農業が盛んとなっており、主力は水稲、麦、大豆である。麦の団地化とブロックローテーションが早くから導入され担い手への土地利用集積も進められている。

一方、北部中山間地域へと続く丘陵地帯では、もも、なし、かき等の果樹や野菜などの栽培と水稲栽培が混在して進められており、農地の集積を進めるのが難しい地域である。

また、管内のほぼ三分の二を占める北部から東部にかけての中山間地域は、200mから600mの標高があり、平坦地や谷間に水田が点在し、耕地条件に恵まれない中、水稲栽培のほか花き、自然薯などの栽培を行い、水田の持つ多面的機能を活かした農地保全に務めている。

しかし、農業者の高齢化や後継者不足が深刻な地域においては優良農地の遊休化が問題となっている。このため、担い手の育成・所得確保の対策が急務となっている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底により米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ米の生産を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米、イ 米粉用米

米粉・飼料用米は、集団転作を行っていない地域においては、重要な転換作物に位置付け、品質・生産性向上の取組を推進し、低コスト化技術を確立し作付面積を維持・拡大していく。

エ WCS用稲

地域の需要者との契約に基づき、求められる数量を作付していく。

オ 加工用米

地域の需要者との契約に基づき、求められる数量を作付していく。また、複数年契約によって生産の安定を図る。

カ 備蓄米

主食用米と同じ機械、施設で取り組めるため、平成25年度から取組を開始したところである。飼料用米との所得率を比較し作付計画していく。

(3) 麦、大豆、飼料作物

小麦について

- ・団地を維持し収量の確保と高品質生産を今後も続けていくため、産地交付金を活用し集団転作における団地面積を維持する。
- ・団地化の取組以外について収量、品質を向上させるため、明渠の実施を推進していく。

大麦について

- ・中山間地において試験栽培を進め、今後、転換作物として栽培可能であれば需要者との契約に基づき、求められる数量を作付していく。

大豆について

- ・水田をフルに活用するため、麦あとの作付を推進していく。

飼料作物について

- ・地域の需要者との契約に基づき、求められる数量を作付していく。

(4) そば、なたね

地域の需要者との契約に基づき、産地交付金を活用して現行の栽培面積を拡大する。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

「なす」を振興品目とし、販売を目的とするその他野菜類についても栽培面積の拡大を推進する。

花き・花木については、「露地菊」を振興品目とし、栽培面積の拡大を推進する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	2,395	2,390	2,390
飼料用米	40	47	47
米粉用米	0.5	1	1
新市場開拓用米	—	—	—
WCS用稲	14	14.1	14.1
加工用米	1.5	2.1	2.1
備蓄米	1	0.8	0.8
麦	851	857	857
大豆	430	470	470
飼料作物	14	13	13
そば	7	7.1	7.1
なたね	5	9.8	9.8
その他地域振興作物	201	201	201
・野菜	189	188	188
・花き・花木	12	13	13

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1	野菜、花き・花木 （基幹作）	高収益作物に対する 用途	取組面積（野菜） （花き・花木） 計	（元年度） 33.3ha 5.1ha 38.4ha	（2020年度） 48.0ha 8.6ha 56.6ha
2	麦類（小麦・大 麦）（基幹作・二 毛作）	麦類の団地化（1ha 以上）に対する用途	作付面積	（元年度） 721ha	（2020年度） 766ha
3	麦類（小麦・大 麦）（基幹作・二 毛作）	麦類の品質向上に対 する用途	作付面積	（元年度） 126.9ha	（2020年度） 91ha
4	大豆、麦類、そ ば・なたね、飼料 作物、WCS用稲、 加工用米	二毛作に対する用途	作付面積（大豆） （麦類） （そば） （なたね） （飼料作物） （WCS用稲） （加工用米） 計	（元年度） 415.6ha 5.4ha 4.7ha 0.0ha 4.5ha 0.0ha 1.5ha 431.7ha	（2020年度） 454.0ha 13.0ha 6.0ha 0.5ha 5.0ha 0.5ha 2.0ha 481.0ha
5	飼料作物、WCS用 稲	資源循環（耕畜連 携）に対する用途	取組面積 （飼料作物） （WCS用稲） 計	（元年度） 0.7ha 13.9ha 14.6ha	（2020年度） 0.5ha 14.0ha 14.5ha
6	飼料用米、米粉用 米（基幹作・二毛 作）	飼料米、米粉用米の 複数年契約	（飼料用米） 複数年契約取組面積 複数年契約数量 作付面積 数量 （米粉用米） 複数年契約取組面積 複数年契約数量 作付面積 数量	（元年度） —	（2020年度） 3400a 171t 4700a 237t 100a 5t 100a 5t
7	そば・なたね （基幹作）	そば・なたねに対す る用途	取組面積（そば） （なたね）	（元年度） 1.8ha 4.5ha	（2020年度） 1.1ha 9.3ha
8	加工用米、米粉用 米、飼料用米、 WCS用稲、飼料作 物、麦類、大豆、 そば、なたね、野 菜、花き・花木 （基幹作）	転換作物の作付拡大 に対する用途	取組拡大面積 （加工用米） （米粉用米） （飼料用米） （WCS用稲） （麦） （大豆） （飼料作物）	（元年度） —	（2020年度） 0.1ha 0.1ha 0.1ha 0.1ha 1.0ha 1.0ha 0.1ha

			(そば) (なたね) (野菜) (花き・花木) 計		0.1ha 0.1ha 1.0ha 0.1ha 3.8ha
9	加工用米、飼料用 とうもろこし、野 菜、花き・花木 (基幹作)	高収益作物等の作付 拡大に対する用途	取組拡大面積 (加工用米) (飼料用とうもろこし) (野菜) (花き・花木) 計	(元年度) —	(2020年度) 0.1ha 0.1ha 1.0ha 0.1ha 1.3ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり